

「以前、今、これからも」

(ペテロの手紙第一2章4節～10節)

牧師：原 雅幸

序) 新しい年も進んでいく神の計画

- ・自分中心ではなく、神様の大きな計画の中に生きることを願って一年を始めよう。神の計画は堂々巡りではなく、前進していく。



1) 「石」を用いて表される神の計画～神殿のストーリー～

- ・「石(エベン)」は「息子(ベン)」と語呂が良いので、ヘブル語において、石は子(御子)を暗示することができる。
- ・ヤコブが兄エサウから逃げる旅で枕にした「石」に油を注いで「神の家」と呼んだところから始まり、神殿のストーリーが展開される。
- ・エルサレム神殿は偶像礼拝の結果、破壊されるが、再建の預言が与えられる。この預言を成就する「石」が「御子」イエスだった。
- ・人が神と出会い、神とつながり、いのちがあふれる場(＝神殿)をこの世界にもたらしたいという神の計画がずっと続いている。
- ・神殿は、神が接近するだけではできない。人間が応えないといけな。神である方が人になったことで、トンネルが繋がった。



2) 「集会」から「神殿」への変化～教会の目指すもの～

- ・「生ける石(＝子)」に変えられた私たちは、霊の家(＝神殿)に組み込んでいただくことが一番良いことである。
- ・イエス様を中心にひとつ心になって、一人一人が受けるだけでなく、与える側になっていくと教会が「集会」から「神殿」に変化する。
- ・神殿に変化した教会では、神様とより良く出会えるようになる。
- ・神殿に変化した教会では、ひとりひとりの人生が、神に喜ばれる「霊のいけにえ」になり、深い満足が与えられる。
- ・このためには、「霊のいけにえ」(複数・各人)を受け取り(受け入れ)、神にささげる(近づける)祭司(単数・全体)がいなくてはならない。

結) 以前、今、これからも

- ・イエス様が来られる以前は、私たちのところにあわれみはなく、神の民となる余地はなかった。しかし、今、私たちは驚くべき光の中にいる。
- ・今も継続する神殿のストーリーに自分をささげるため「主のもとに来て」「霊の家に築き上げられる」ことが命じられている。継続命令である。
- ・主イエスが人から捨てられたように、この生き方を人が見向きしなかったとしても、神が喜んで下さり、たましいが真に安らぐ生き方を選ぼう。

名前(_____)

◆お話を聞きながら、答えを考えましょう。

① 神殿のストーリーは、どういう順番で進みますか。番号をいれましょう。

- () イザヤが神殿の再建(建て直し)を預言する
- () イエスさまが生きた神殿として来られる
- () ヤコブが神さまと出会い、石の柱を立てる。
- () 神殿で、偶像礼拝が行われ、破壊される。
- () ソロモン王が、神殿を建てる。
- () イエス様を信じる人の集まりが、神殿になっていく

② 「霊の家」(神殿)とは、どういうところ(状態)を言いますか。

◆お話を聞いた後で、考えましょう。

③ 教会が「霊の家」にもっとなっていくために、自分にできることは何でしょうか。



～教会クイズ(教理問答)～

Q033 「わたくしは聖霊を信じます」とは、どういうことですか。

A033 父と子と共に聖霊をあがめ、 するということ

です。そして、神さまに された人生を生き、イエスさま

に れた喜びと感謝の生活を送ることができます。

☐ヒント☐ エゼキエル 36:25-32、ヨハネ 14:16-17、第一コリント 12:3、ガラテヤ 5:16-26、

エペソ 1:13-14、テトス 3:4-7

